

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料

音楽（器楽）

教科用図書南那珂採択地区協議会

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、各楽器についての基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「演奏の仕方を身に付けよう」と、身に付けた奏法の活用をねらった「合わせて演奏しよう」が設けられるなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「唱歌について」のページを設けたりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p>
27 教 芸	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、楽器の基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「アンサンブルセミナー」と、身に付けた奏法の活用をねらった「アンサンブル」や「楽器で Melody」が設けられるなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「演奏者からのメッセージ」を掲載したりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、教材ごとに「学びのねらい」をスタート、「まとめの曲」をゴールに設定し、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、身に付ける技能の模範となる演奏を試聴できる「まなびリンク」や、写真、イラスト、解説を掲載するなどの工夫が見られる。</p> <p>また、「Let's play!」「Let's Try!」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、吹く楽器と弾く楽器の学習の最後に「何が同じで、何が違う？」のページが設けてあり、共通性と固有性を考え、特徴を理解することができるように工夫されている。</p> <p>また、「話し合おう」では、考えたことや気付いたこと等をまとめ、協働的な活動が展開できるような工夫がされている。</p>
27 教 芸	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「アンサンブルセミナー」では「学習目標」「活動文」「深めよう！音楽」によって、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、写真やイラスト、解説を掲載したり、様々な演奏や動画等を視聴できるQRコードを設けたりするなどの工夫が見られる。</p> <p>また、「アンサンブル」「楽器でMelody」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各楽器の学習の初めに、鑑賞曲を提示し、聴くことによって特徴を理解させるように工夫されている。</p> <p>また、「深めよう！音楽」では生徒のキャラクターの吹き出しに、対話の例や考える視点等が示され、考えや気付いたこと等をまとめて協働的な活動が展開できるように工夫されている。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢とかまえ方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、鮮やかでダイナミックな写真やイラストを多く使うなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。
27 教 芸	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢と構え方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、リコーダーの運指表のカラー掲載や替え指の紹介をするなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 地域と連携した学習が進められるように、演奏曲として「さくらさくら」や「荒城の月」などが選曲されており、生徒が身近な自然や四季の美しさ、暮らしとのかかわりを感じ取りながら演奏の仕方を身に付けられるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、写真や図、詳しい解説で姿勢や指の使い方等の基本的な技能を分かりやすく説明し、身体的に無理なく進んで楽器を演奏できるように工夫されている。</p>
27 教 芸	<p>(1) 地域と連携した学習が進められるように、太鼓を使った各地に伝わる郷土の祭りや芸能を写真で紹介するなど、生活や社会と音楽とのつながりを実感しながら演奏の仕方を身に付けられるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、様々な角度の写真や図を使って姿勢や指の使い方等の基本的な技能を分かりやすく示し、手順を追って無理なく楽器を演奏できるように工夫されている。</p>